

2022 オフィシャル ソフトボール ルール 改正

P36 3-4項 靴 (シューズ)

【改正点】

3-4項3、並びに3-4項3(注2)に「セラミック製スパイク」を追加する。

3. 金属製スパイク・セラミック製スパイク、または硬い滑り止めは、靴底からの高さが1.9cm以内のものが使用できる。

(注2) 小学生、中学生、一般男子、壮年、実年、シニア、ハイシニア、教員、レディース、エルダー、エルデストは金属製スパイク・セラミック製スパイクの使用を禁止する。

【改正理由】

セラミック製スパイクは金属製スパイクには含まれないが(陶磁器の部類に入る)、金属製スパイク同様に危険性が高いことから、上記(注2)の種別における使用を禁止し、その旨明記した。

P41~42 3-8項 ユニフォーム及び帽子・バイザー・ヘルメットの宣伝広告表示

【改正点】

3-8項 宣伝広告を表示できる部分に「バイザー」を追加し、(1)(3)(6)の宣伝広告表示の範囲を緩和・拡大した。

3-8項 ユニフォーム及び帽子・バイザー・ヘルメットの宣伝広告表示

ユニフォーム及び帽子・バイザー・ヘルメットには、宣伝広告(企業名・商品等)に類するロゴマークを表示することができる。ただし、表示方法は次の通りとする。

(1) ユニフォームに表示できる場所は左胸一箇所、右胸一箇所、背面(ユニフォームナンバーの上)一箇所、左袖二箇所、右袖二箇所、ズボン左右一箇所ずつとし、その大きさは、それぞれ「縦50mm×横120mm」を超えないものとする。

(3) 帽子・バイザー・ヘルメットに表示できる場所は左右それぞれ二箇所ずつとし、すべての帽子・バイザー・ヘルメットの同一箇所に表示する。

大きさは、それぞれ「縦50mm×横120mm」を超えないものとする。

(6) チーム名、チームロゴマーク、主催者が定めた大会ロゴマーク、ユニフォーム・帽子・バイザー・ヘルメットの製造メーカー名・ロゴマークについては上記(1)~(5)までの

規定は適用しない。

【改正理由】

2022年度に開幕する「JD.リーグ」より改正要望があり、それに応える形でルール改正を行う。

P45 指名選手 (DP/DESIGNATED PLAYER)

【改正点】

4－5項5の「DPの打撃」を「DPの**打撃・走塁**」に修正する。

5. DPはいつでもFPの守備を兼ねることができる。また、FPはいつでもDPの**打撃・走塁**を兼ねることができる。

【改正理由】

WBSC（世界野球ソフトボール連盟）のルールでは、「**オフENSE (OFFENSE)**」を兼ねることができるという文言・文章表現となっており、JSAルールにおいても、実際のルールの運用においては、FPがDPに代わって打席に入り、**打撃**を行うことやFPが塁上の走者となっているDPに代わって**走塁**を行うことを認めていることから、ルールの解釈、実際の運用に合わせる形で、従前の「打撃」となっていた部分を**打撃・走塁**の文言に修正を行う。

P54 5－3項5 サスペンデッドゲーム

【改正点】

5－3項5. サスペンデッドゲームの条文の冒頭、「引き分け試合か無効試合の場合は、」の文章表現を、「引き分け試合か無効試合の場合**のみ**」に修正。

5. サスペンデッドゲーム

引き分け試合か無効試合の場合**のみ**一時停止試合（サスペンデッドゲーム）を大会要項により採用することができる。

サスペンデッドゲームを採用した場合、一時停止したその場面から、試合を再開する。

【改正理由】

現行ルールでは、**サスペンデッドゲームは、大会要項に明記の上、試合が成立していない状況、もしくは試合が成立する状況であっても同点で試合の決着がつかない場合に限り、採用できるとルールにより定められている。**

しかし、実際の運用では、試合が成立している状況にありながら、サスペンデッドゲームを採用したような事例が報告されている。これは野球ではそれぞれの加盟団体や組織によってサスペンデッドゲームの採用基準が様々で、混同されているようなケースが考えられるので、「のみ」の文言を追加することで、**サスペンデッドゲームの適用、採用に関する規定を再確認してもらう意味**を含め、修正を行うものである。

P96 R8-6 項 走者がアウトになる場合

【改正点】

ルール適用の内容及びその〈効果〉が、「ボールインプレイ中に適用される項目」と「ボールインプレイ中、ボールデッド中、どちらにも適用される項目」が混在していたため、内容によって整理し、ひとまとめになっていた〈効果〉を状況・適用に応じて2つに分けて記載した。

現行 8-6 項 5. → **8-6 項 7.** に移動

8-6 項 6. → **8-6 項 5.** に移動

8-6 項 7. → **8-6 項 8.** に移動

8-6 項 8. → **8-6 項 6.** に移動

また、現行 8-6 項〈効果〉1~8を〈効果〉1~6、と〈効果〉7~8の2つに分け、表記した。

5. 走者がタッチアップするとき、塁の後方からランニングスタートしたとき。

(※現行 8-6 項 6 を 5 に移動。条文記載内容に変更なし。掲載場所の移動のみ)

6. 走者が塁を離れ、進塁する意思を明らかに放棄してベンチに入ったり、競技場外に出たとき。

(※現行 8-6 項 8 を 6 に移動。条文記載内容に変更なし。掲載場所の移動のみ)

〈効果〉1~6

(1) ボールインプレイ

(2) その走者はアウトになる。

7. ボールインプレイ中、ボールデッド中にかかわらず、他の走者以外の者が走者の身体に触れ、走塁を援助したとき。

(※現行 8-6 項 5 を 7 に移動。条文記載内容に変更なし。掲載場所の移動のみ)

8. 後位の走者がアウトになっていない前位の走者を追い越したとき。

(注) 走者が安全進塁権を与えられ、進塁しているときも、追い越しアウトは適用される。

(現行 8-6 項 7 を 8 に移動。条文記載内容に変更なし。掲載場所の移動のみ)

〈効果〉 7～8

ボールインプレイ中、ボールデッド中にかかわらず、その走者はアウトになる。

【改正理由】

現行 8-6 項 5 は、「5. ボールインプレイ中、ボールデッド中にかかわらず、他の走者以外の者が走者の身体に触れ、走塁を援助したとき」とボールインプレイ中、ボールデッド中の両方が想定されたものであり、また、8-6 項 7 は、「7. 後位の走者がアウトになっていない前位の走者を追い越したとき」の後に(注)として「走者が安全進塁権を与えられ、進塁しているときも、追い越しアウトは適用される」と、安全進塁権を与えられる状況、すなわちボールデッド中のことに言及しているにもかかわらず、その〈効果〉は 8-6 項 1 から 8-6 項 8 までをひとまとめとし、

〈効果〉 1～8

(1) ボールインプレイ

(2) その走者はアウトになる。とされてしまっていた。

そのため、現行の 8-6 項 5～8-6 項 8 までを上記の通り、項番、掲載順を変更。〈効果〉 1～6 に修正し、〈効果〉 7～8 を新設することで、その「矛盾」を解消した。

P121 12-9 項 プットアウト (刺殺)

【改正点】

12-9 項 3、各塁での離塁アウトについて、現行「各塁手」にットアウトを記録・記帳していたものを、「最も近い野手」に変更する。

3. 各塁での離塁アウトは、最も近い野手にットアウトが記録される。

【改正理由】

2020 年 2 月 1 日に改訂・発行した「スコアリングマニュアル」第 4 版ですでに変更済みの内容がルールブックからは修正が漏れていたため、今回、実際の記録・記帳に合わせ、修正を行う。

2022年オフィシャルソフトボール 競技者必携(記録の部)改正

(公財)日本ソフトボール協会 記録委員会

21年頁	項	2021年 競技者必携	22年頁	項	2022年 競技者必携
130	公式記録員規定 第6条 2	その年度の <u>ワッペン</u> が交付される	132	公式記録員規定 第6条 2	その年度の <u>登録カード</u> が交付される
131	” 第6条 3	その年度の <u>ワッペン</u> を携帯しなければ	133	” 第6条 3	その年度の <u>登録カード</u> を携帯しなければ
135	公式記録員手引き 1-(6)-②	スコアカード、鉛筆またはシャープペンシル(黒、B～2B)、消しゴム、定規、時計、 <u>鉛筆けずり、集計用電卓</u>	137	公式記録員手引き 1-(6)-②	スコアカード、鉛筆またはシャープペンシル(B～2B)、消しゴム、定規、時計、…
144	公式記録員手引 3-(2)-1)	正規の服装で(<u>ワッペン</u> を忘れないこと)	146	公式記録員手引 3-(2)-1)	正規の服装で(<u>登録カード</u> を忘れないこと)
144	公式記録員手引 3-(2)-2)	持参するものは…… スコアリングマニュアル・鉛筆、定規、 <u>小型電卓</u> 、集計用紙	146	公式記録員手引 3-(2)-2)	持参するものは…… スコアリングマニュアル・鉛筆、定規、集計用紙
150	記録3号	〇〇年連続 〇〇 <u>度</u> 目の優勝	152	記録3号	〇〇年連続 〇〇 <u>回</u> 目の優勝

2022年オフィシャルソフトボール ルール改正

(公財)日本ソフトボール協会 記録委員会

21年頁	項	2021年オフィシャル ルール	22年頁	項	2022年オフィシャル ルール
121	12-9-3	各塁での離塁アウトは、各塁手にプットアウトが記録される	121	12-9-3	走者に離塁アウトが宣告されたときは、最も近い野手にプットアウトを記録する。

No.	頁	項・節	訂正前	訂正後
1	108	事例22-3	Q 一死一塁。2番打者の打順で3番打者が打席に入り三塁ゴロを打った。	Q 無死一塁。2番打者の打順で3番打者が打席に入り三塁ゴロを打った。
2	巻末	記帳要領 後攻	※検算を行う 打席数＝打数＋犠牲打＋四球＋故意四球＋死球＋打撃(一塁への出塁)妨害	※検算を行う 打席数＝打数＋犠牲打＋四球＋故意四球＋死球＋打撃(一塁への走塁)妨害
3	28	解説編 (2)⑨	打者が投手の両足が投手板に触れた後、反対側の打者席に移ってアウトが宣告されたとき。	打者が投手の軸足が投手板に触れた後、反対側の打者席に移ってアウトが宣告されたとき。
4	5	守備位置について	スキンド インフィールド (内野想定線)	ガラスライン (内野想定線)

記録委員会 統一事項

◎ 全国大会・日本リーグ

1 基本事項

- (1) 公式記録員手引 ～公式記録員の役割と心得～ を遵守すること。
- (2) 試合会場に記録集計本部を設置し、コピー・電話・FAX・パソコン等を準備すること。また、情報伝達をスムーズに行うため、Wifi環境の整備に努めること。
- (3) 事前研修会に参加し、スコアリングマニュアルの確認を始め、様々な事例に対応できるよう努めること。
- (4) 記録員は先発完投形を原則としながらも、記録員の育成にも配慮すること。
- (5) 審判記録会議には必ず出席し、競技規則等の確認をすること。
- (6) 前日までの準備が大会成功の鍵となるため、機器の点検やPC集計のためのチーム名や選手名などデータ点検は必ず行うこと。
- (7) 試合当日は定められた時間に集合し、全体朝礼や記録員朝礼に参加すること。
- (8) スコアカードは関係各所に提供するため、コピーやスキャナーを利用するので濃い鉛筆（B、2B）を使用し、文字は楷書で丁寧に書くこと。
- (9) 試合前、担当審判員・放送員とのミーティングに参加し、連携を密にすること。
- (10) 試合後は、記録長等によるスコアカードの点検を受けるまでを1試合の業務とする。
- (11) 記録帳票（特に3号、4号）の提供には間違いやモレが無いよう事前に点検を行うこと。
- (12) 報道関係へはすべて記録本部から連絡・回答すること。（報道責任者と連携する）
なお、報道関係者の要望には可能な限り応えること。
- (13) 降雨等でグラウンド状態が悪く、整備が行われるときには、積極的に参加し、試合の進行に協力すること。

2 資格制度の徹底について

全国大会、地区大会、支部大会での記録は、決められた資格者が担当すること。

3 日本協会派遣記録員について

(1) 全国大会

①-1 記録委員会委員が派遣される場合（国体以外）

大会記録長 日本協会記録委員長、副委員長、委員

①-2 記録委員会委員が派遣される場合（国体）

大会記録長 日本協会記録委員長

大会副記録長 日本協会記録副委員長、委員 ※種別毎

② 記録委員会委員の派遣されない場合

大会記録長 開催地記録委員長

(2) 日本リーグ/JDリーグ

① 記録委員会委員が派遣される場合

大会記録長 日本協会記録委員長、副委員長、委員

大会副記録長 開催地記録委員長

② 記録委員会委員以外のリーグ記録員が派遣される場合

大会記録長 開催地記録委員長

大会副記録長 開催地記録副委員長等

リーグ記録員 日本協会記録委員会が指名した記録員

4 国民体育大会について

- (1) 前年に開催されるリハーサル大会では、日本協会記録委員会と連携を保ちつつ、本大会と同様の業務運営を行うこと。
- (2) リハーサル大会終了後、すみやかに反省会を行い、本大会へ向けた準備を行うこと。

◎ 認定会

1 第1種認定会

- (1) 事前研修を十分行い、受験者の理解度を知ることが重要である。
- (2) 所定の書式で受験者名簿を作成すること。
- (3) 所定の書式による合格者名簿と、(2)の受験者名簿と共に認定手続きを行うこと。

先頭打者は右翼越え二塁打を打った。

次打者はフライを打ち上たが投手が落球。すぐに投手自身がボールを拾い一塁へ送球し打者走者をアウトにした（記録上は失策無し）。

二三塁間にいる二塁走者は落球を見て三塁へ進塁（打者はアウトになっているので失策による進塁ではなく、記録上は打撃による進塁とした）し、そのままの流れで本塁に向かい得点した。

この時すでに大量得点を取られていた守備側は本塁への対応（緩慢ブレイと見て取れる）もしなかったため、盗塁による得点とした。これでよいか？

記帳事例

1	⋮ ○	(2) ↓ ● S' 9
2	⋮ ○	1-3 I
3	⋮ ○	(5)(4) l B
4	○	l ⁽⁵⁾ D
5		5-3 II
6	○ ○	KS III

記帳回答

1	⋮ ○	1E 9
2	⋮ ○	1-3 I
3	⋮ ○	(5)(4) l B
4	○	l ⁽⁵⁾ D
5		5-3 II
6	○ ○	KS III

落球

解説

投手が落球しても一塁に送球して打者走者をアウトにしているため、投手の失策は記録しないが、その落球がなければ二塁走者は進塁出来ないため、二塁からの進塁はフライ落球による失策とする。2番打者の所にはフライ記号と引き出しメモ「落球」を残すと良い。

参考：スコアリングマニュアル事例編、P60の事例14-3